

一粒の麦 場面三

## 女性医師への決意



吟子が医師になると決意したきっかけは、結婚して不慮の病に倒れ、女性の医師がいなくて辛い思いをしたことです。

1870(明治3)年、吟子は病気で協議離婚(19歳)、師の松本萬年の紹介で大学東校(東京大学医学部)の付属病院に入院することになりました。約2年間の入院を余儀なくされました。やや回復し、吟子は、同じ女性患者を励ます際、男性の医師に診察される経験に羞恥と屈辱を覚えることに共感し、これが嫌で受診せず命を落とす女性さえいることを嘆きます。吟子自身が女性医師となる決意をしました。



退院し故郷に戻った吟子は本格的に学問を始めます。まず、幕末の著名な儒学者 寺門静軒が妻沼村(現熊谷市妻沼)に開塾した両宜塾に入門します。吟子は、静軒の後を継いだ松本萬年の教えを受けましたようです。松本萬年は静軒の漢学を学び医業も修めた人物です。そして、1873(明治6)年にさらに学問を修めるため22歳で上京しました。

▶ 両宜塾



パネルその三

資料提供 (株)現代ぷろだくしょん  
写真提供 (株)トライストーン・エンタテイメント  
引用元 映画『一粒の麦 荻野吟子の生涯』facebook / Imgrum#荻野吟子photos&videos  
若村麻由美 mayumi wakamura official

写真と解説はイメージです。史実と異なる場合もあります。

一粒の麦 場面四

## 吟子の旅立ち



「行ってきます・・・」

1873(明治6)年、吟子はさらに学問を修めるために上京しました。